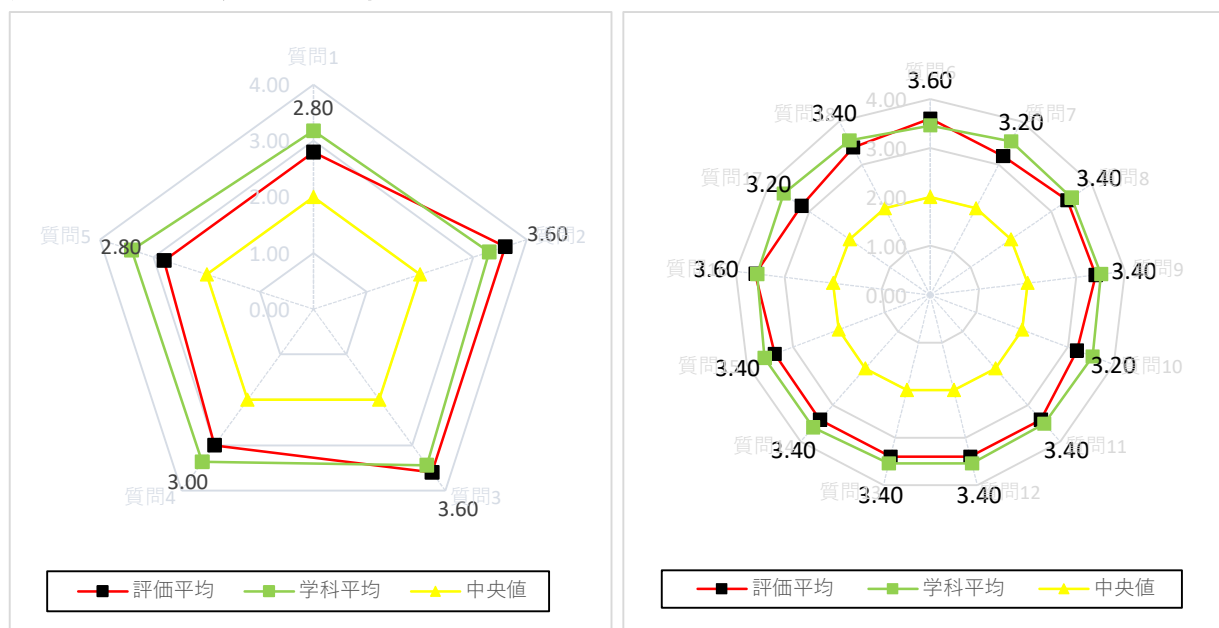


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

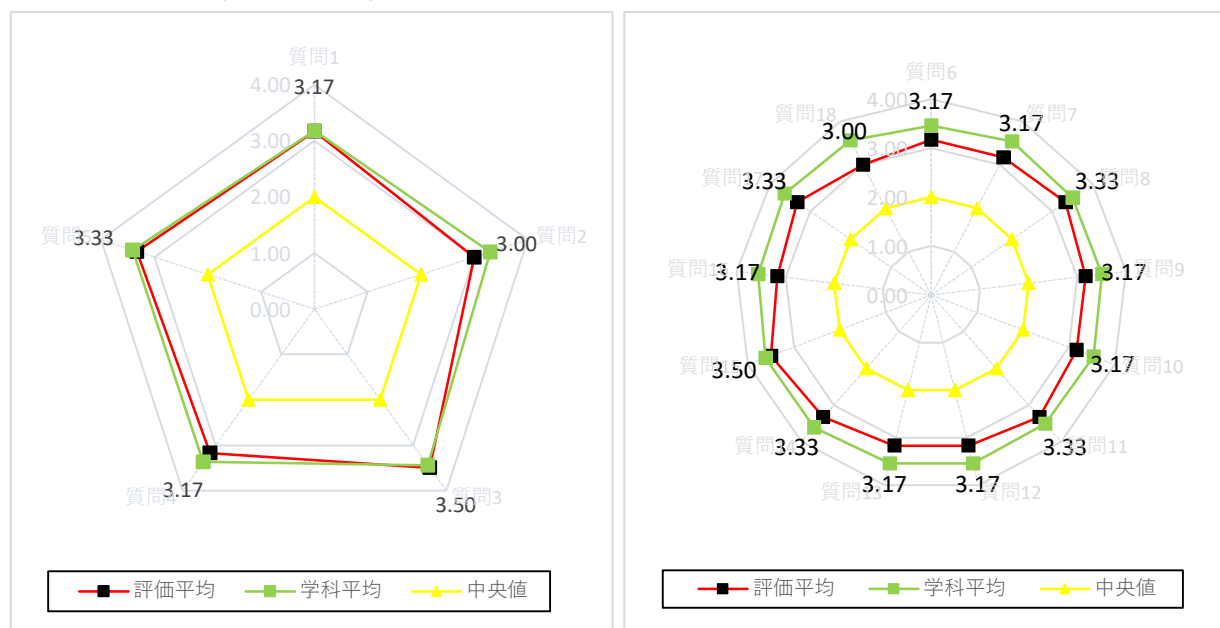
学科平均と比較して授業出席、授業理解のための工夫、総合自己評価が低い結果となった。授業欠席については指導したが、改善出来ないままであった。教員が授業に熱心に取り組んでいたか、到達目標が明確であったかどうかの評価も低い結果となった。あすなろうは、臨床実習に出るための社会人基礎力向上のため、毎回違ったテーマで授業が展開されているが、学生には全体像が掴みにくかったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業への出席を促すために、講義担当教員以外も毎授業、チューター学生の様子を確認してコミュニケーションをとっていく必要がある。またあすなろうの授業を通して何を学修して欲しいのかを明確にする必要がある。チューターごとのディスカッション時間に次年度は丁寧に説明したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

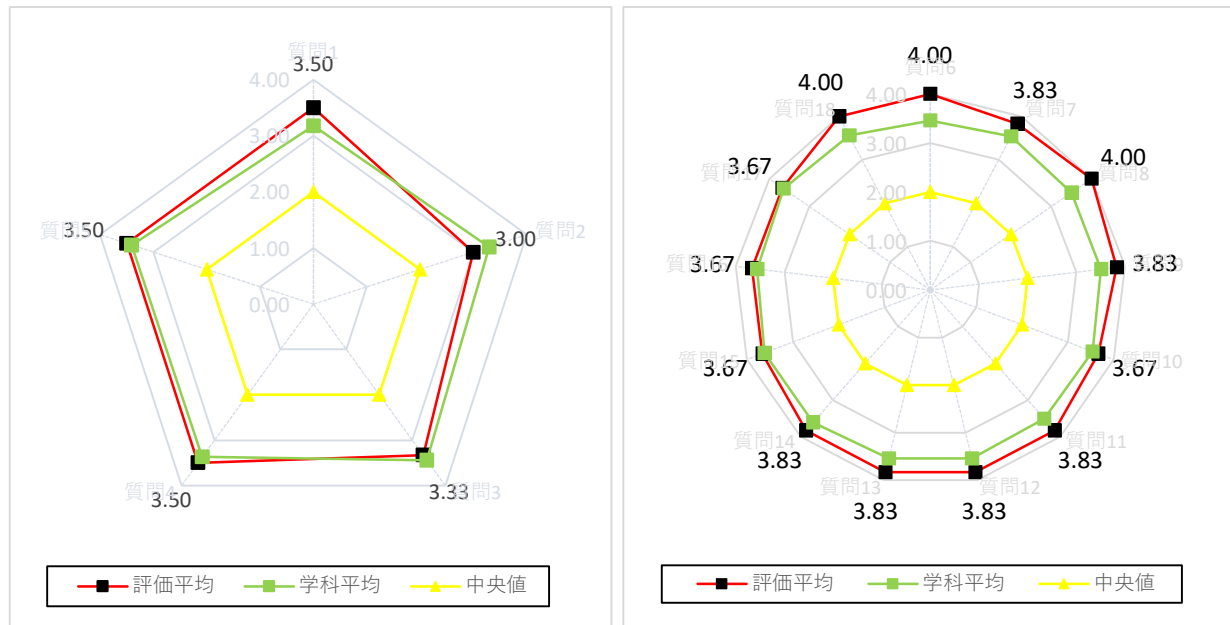
平均値よりも僅かに点数が低い値となっているので、次年度以降は学生の満足度の向上に向けて授業を準備していきたいと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

初年度教育の科目となるため、不安な面がないように資料の準備などをしていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

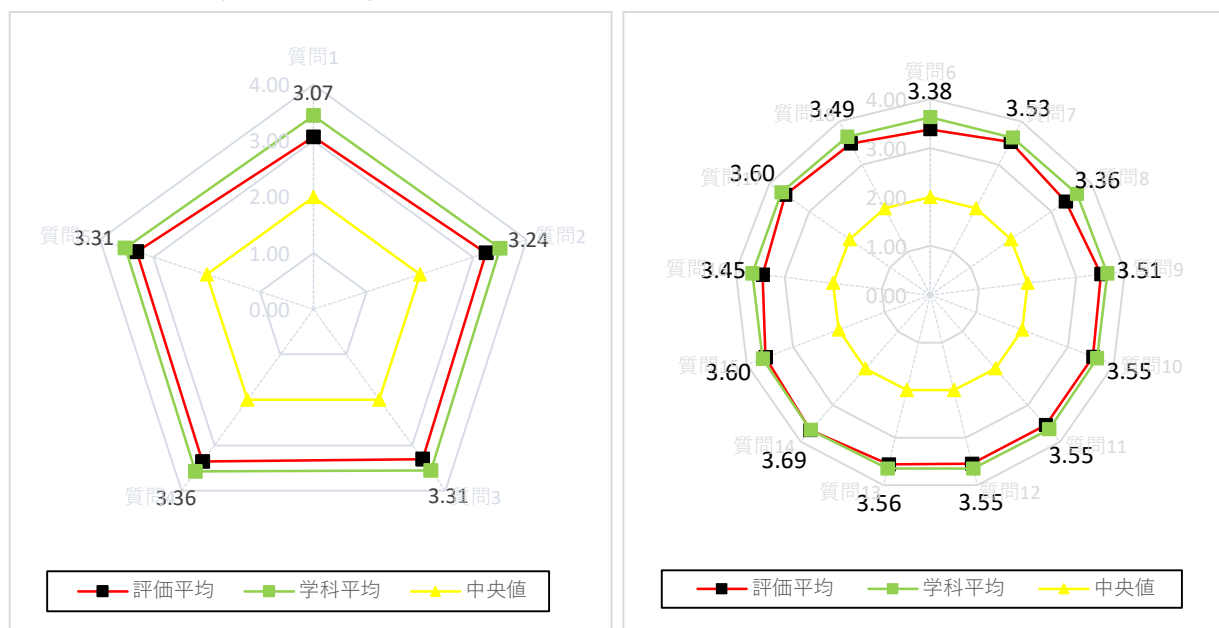
接遇や医療倫理など、臨床実習Ⅰに向けての準備もできた。そのため、学生の満足度が高い評価となったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度と同じように取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		公衆衛生学	85名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

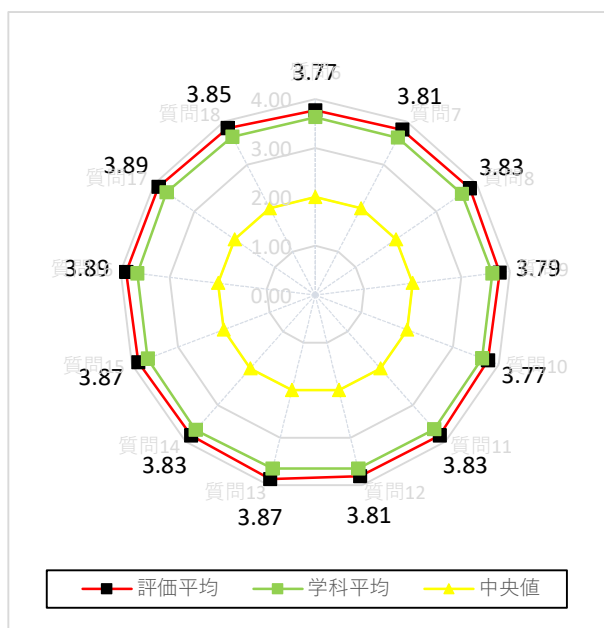
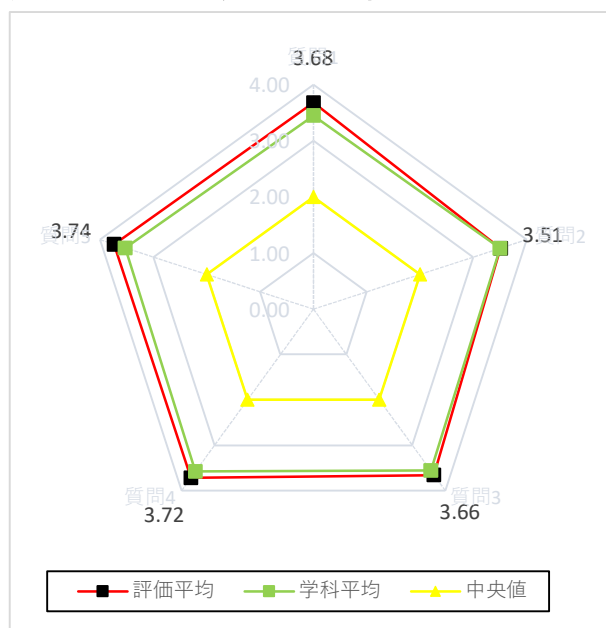
すべての質問において中央値は超えていたものの、「質問14 学生の質問等に誠実に対応しましたか。」を除いて、学科平均を若干下回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の出席を促す。
 授業中に居眠り・私語等のない授業を心掛ける。
 シラバス（授業計画）について説明する
 授業の到達目標を明確にして、授業を展開していく。
 授業は興味・関心が持てる工夫をする。
 授業は分かりやすくする工夫する。
 声の大きさ・明瞭さ・話す速さを学生目線にする
 双方向的なやり取りをしながらの授業を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学実習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

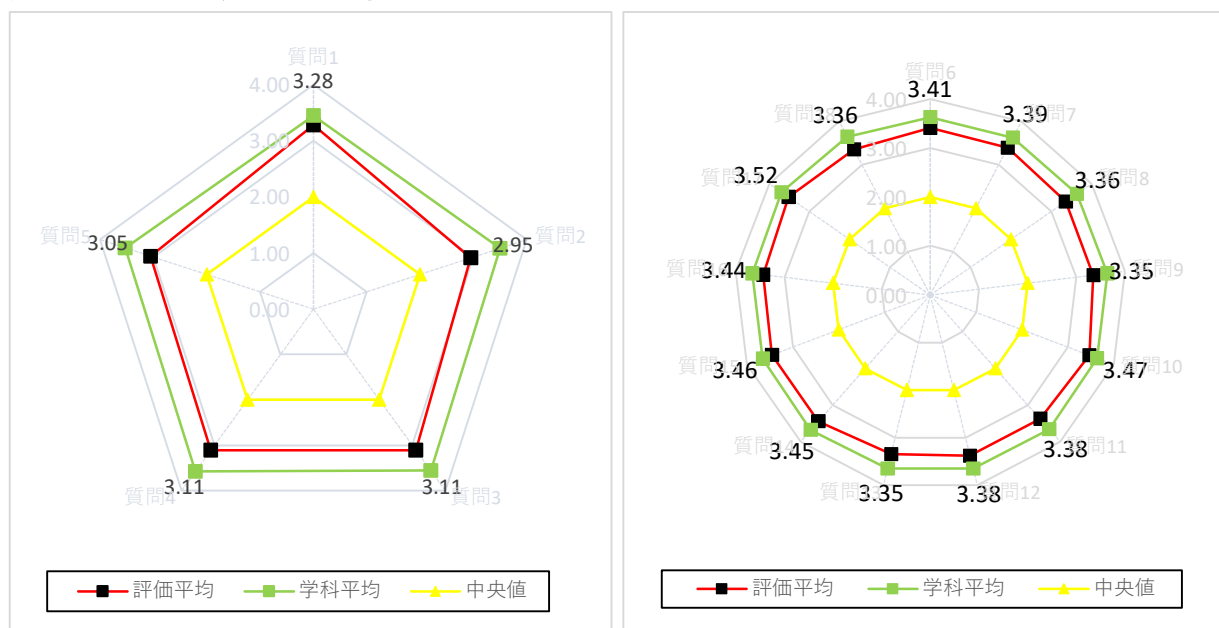
積極的に実習に取り組む姿勢が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も引き続き、分かりやすく実習を実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学 I	88名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

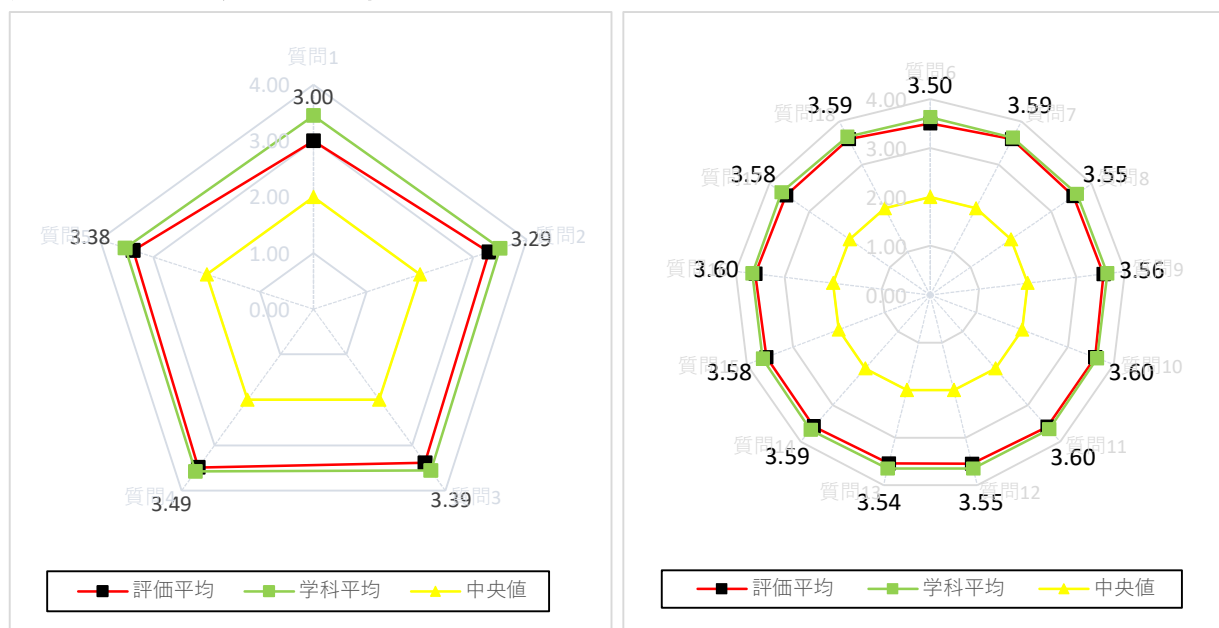
全般的に聞いていない学生が多い。理解しているか確認した上で進めているように心がける必要がある。隣の人と話す時間を設けて、お互いの理解を高めるように促しても、話もしないし聞いてもない。どうしたら良いものか。

(3) 次年度に向けての取り組み

興味を持てるようなコンテンツを準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	88名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

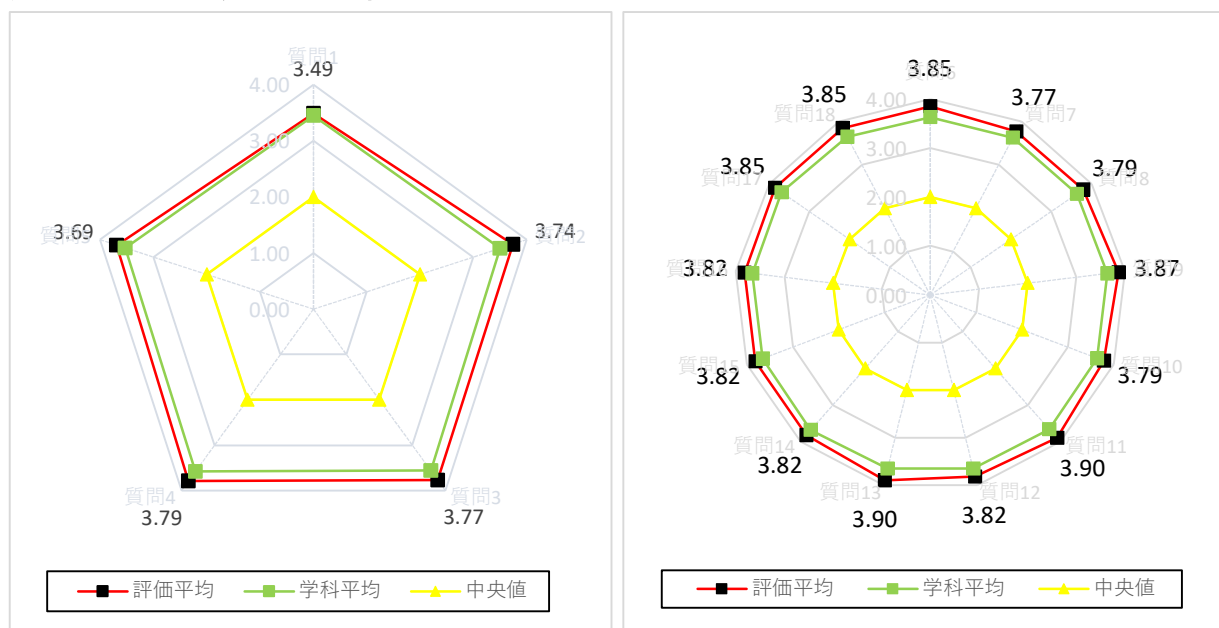
生理学Ⅰよりは点数が向上したが、満足度としては低いように思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

多くの事をたくさん教えるのではなく、要点のみが分かるように指導していく方法を取るようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

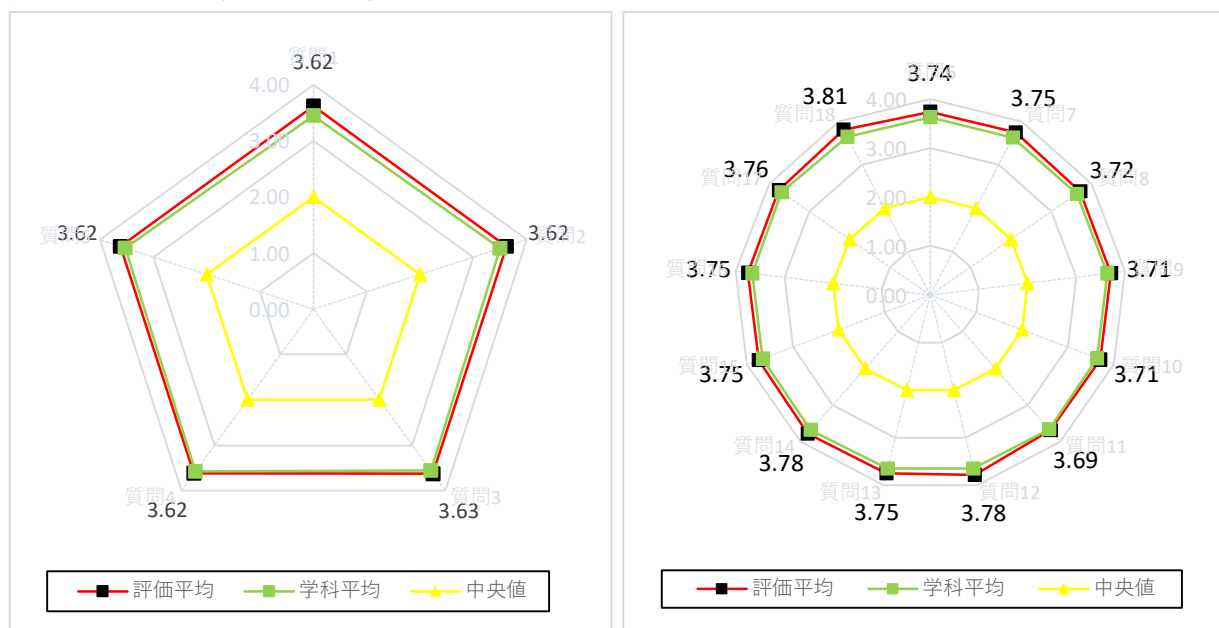
質問1を除いて、すべて学科平均を若干上回る評価点数であった

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、学生数が昨年度より増加し、また留学生も含まれるため、より丁寧に対応していきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		疾病予防と健康管理	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

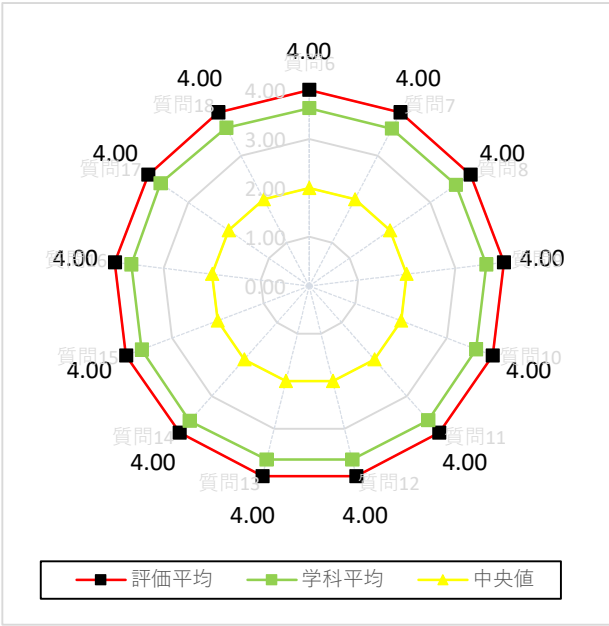
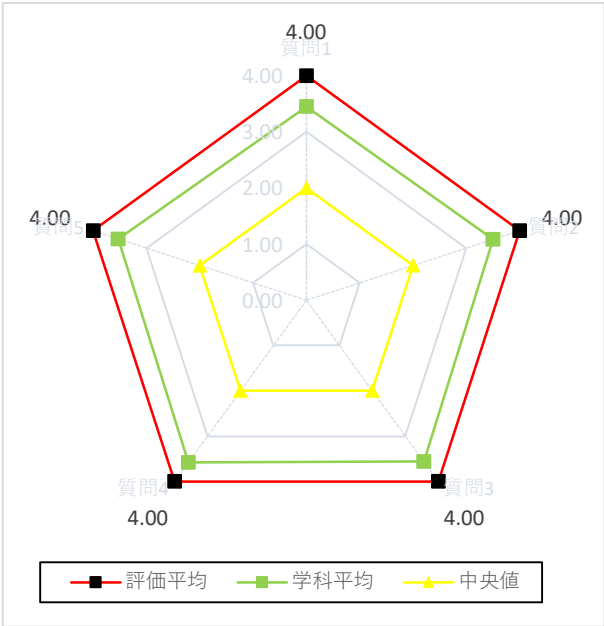
すべての項目で高い点数となった。映像や資料、実技を交えて興味を継続できるような講義を心掛けた。また提出課題を設けたことで出席率も良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

理学療法専攻・作業療法専攻合同の授業であるため、両専攻の学生が理解できるような授業内容を考える。また予防リハ分野は多岐に渡るため、教員も情報のブラッシュアップに努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学 I	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

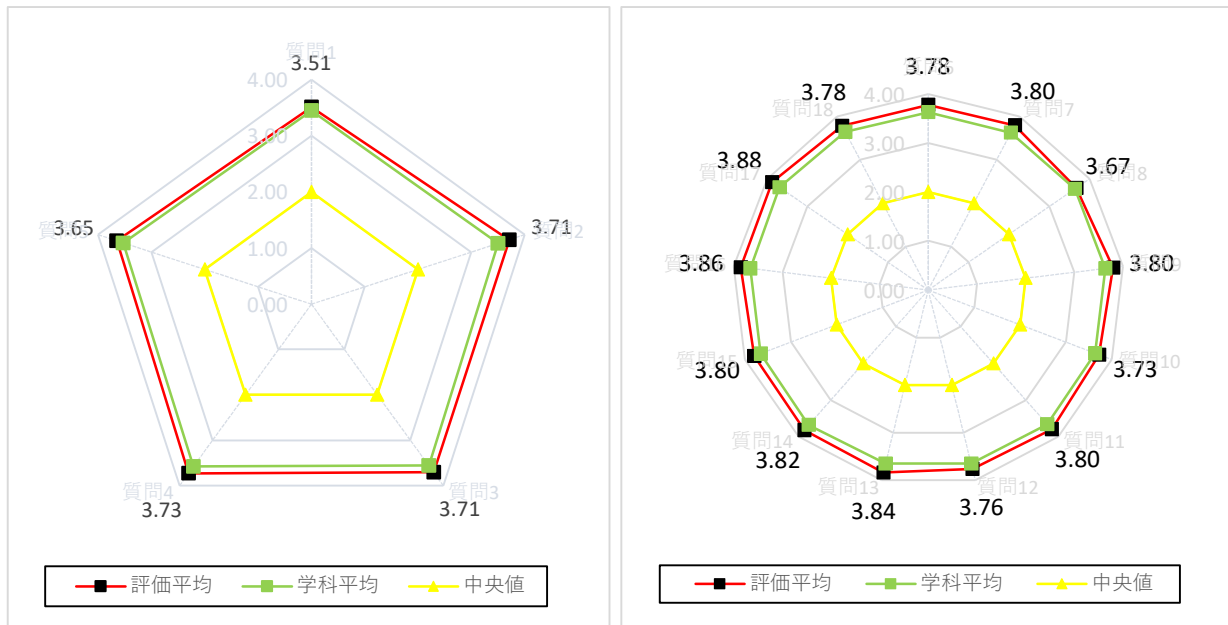
すべての質問で学科平均を上回り、満点に近かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

R7年度と同様、高評価を目指して講義する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

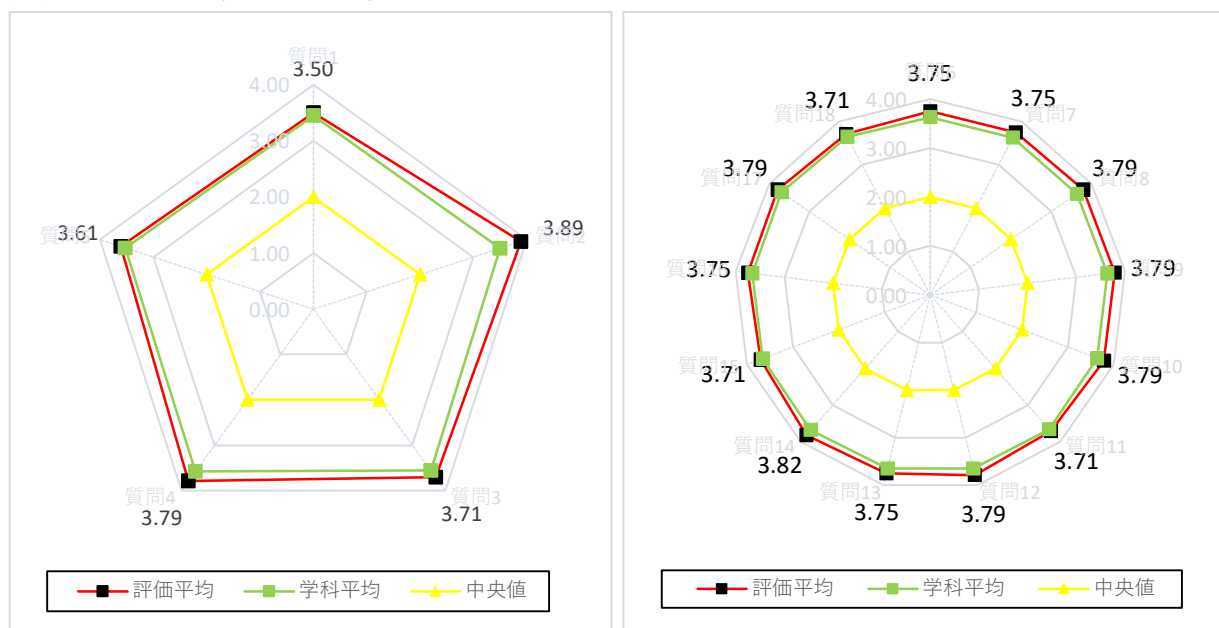
すべての質問で、学科平均あるいはそれを上回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満点を目指して講義する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

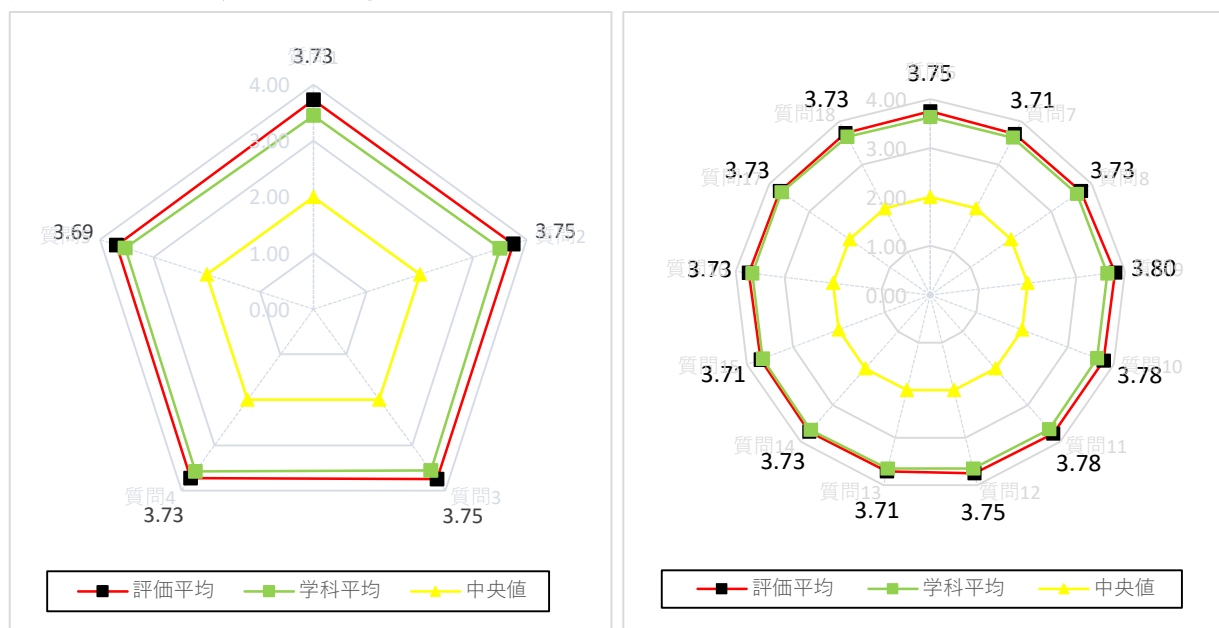
学科平均と同程度または若干上回る評価点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、学生数が昨年度より増加し、また留学生も含まれるため、より丁寧に対応していきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

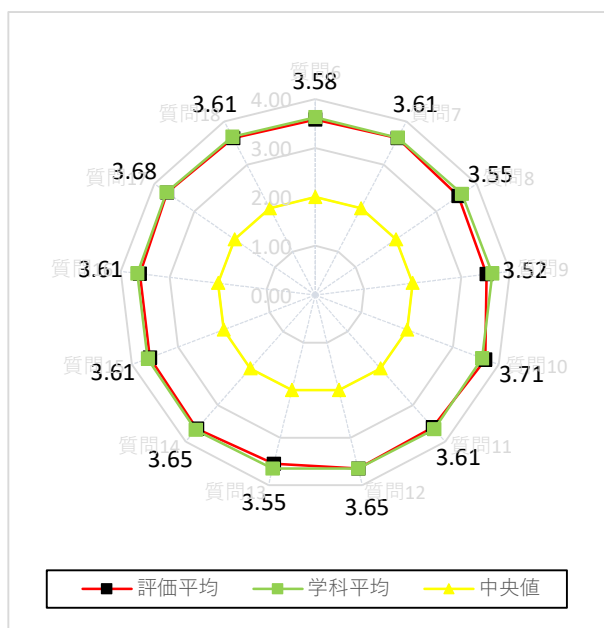
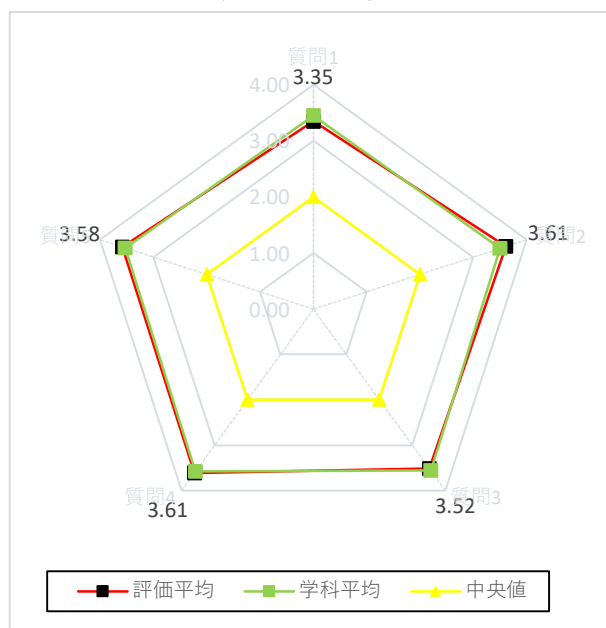
すべての項目で高い得点となった。学生がゼミ教員とともに意欲的に研究を進めていた。またゼミごとに特徴のある授業が展開出来ており、学生の満足度も高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、各ゼミ担当教員と一緒に研究に取り組んでいく。また学外活動も積極的に取り入れ、地域貢献についても学べるよう内容を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法管理学	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

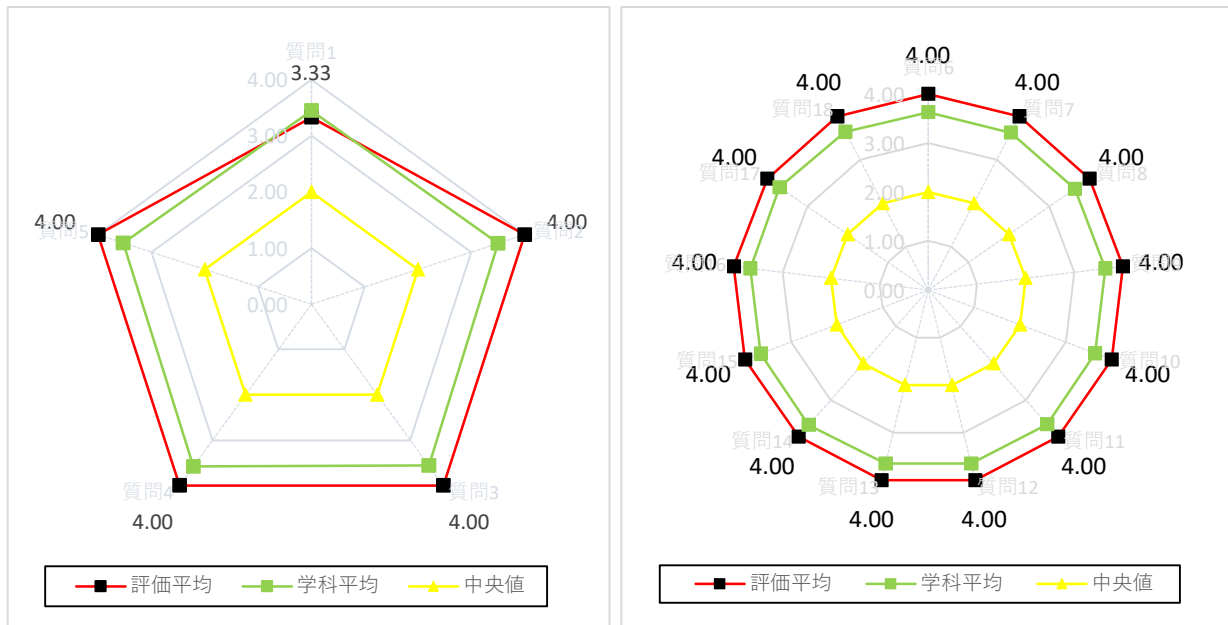
課題にも熱心に取り組んでもらえた。

(3) 次年度に向けての取り組み

最新の情報を伝えられるように、インターネットを活用した講義を展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

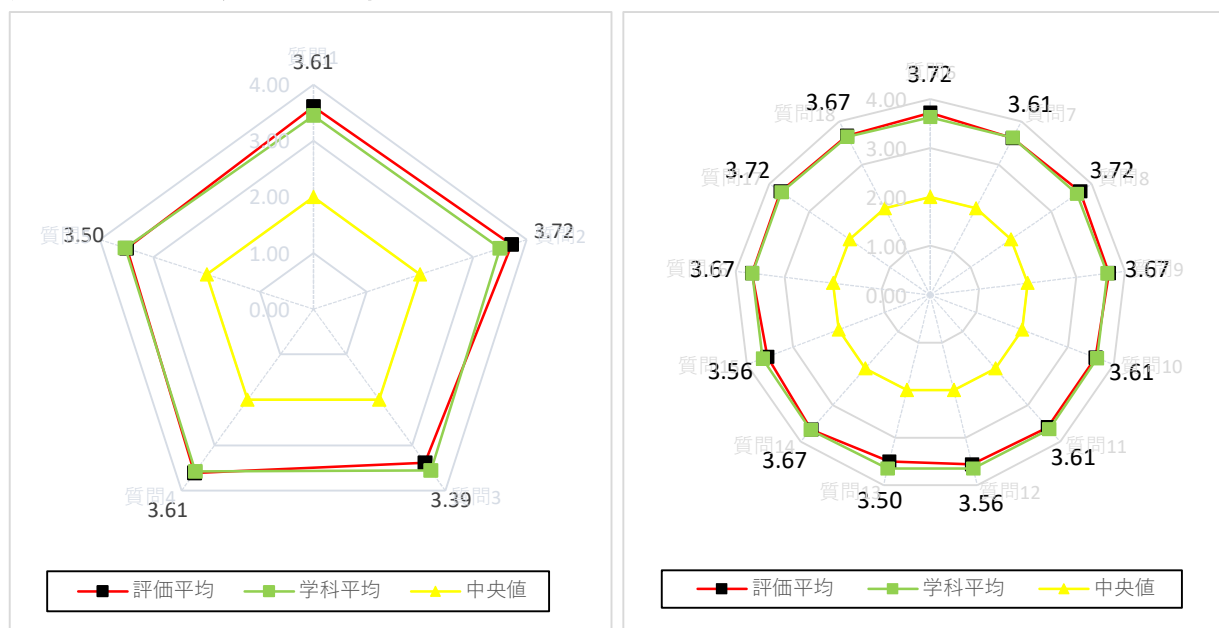
すべての質問で学科平均より高い点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生にとってより分かりやすく興味を持てる授業になるように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学実習	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

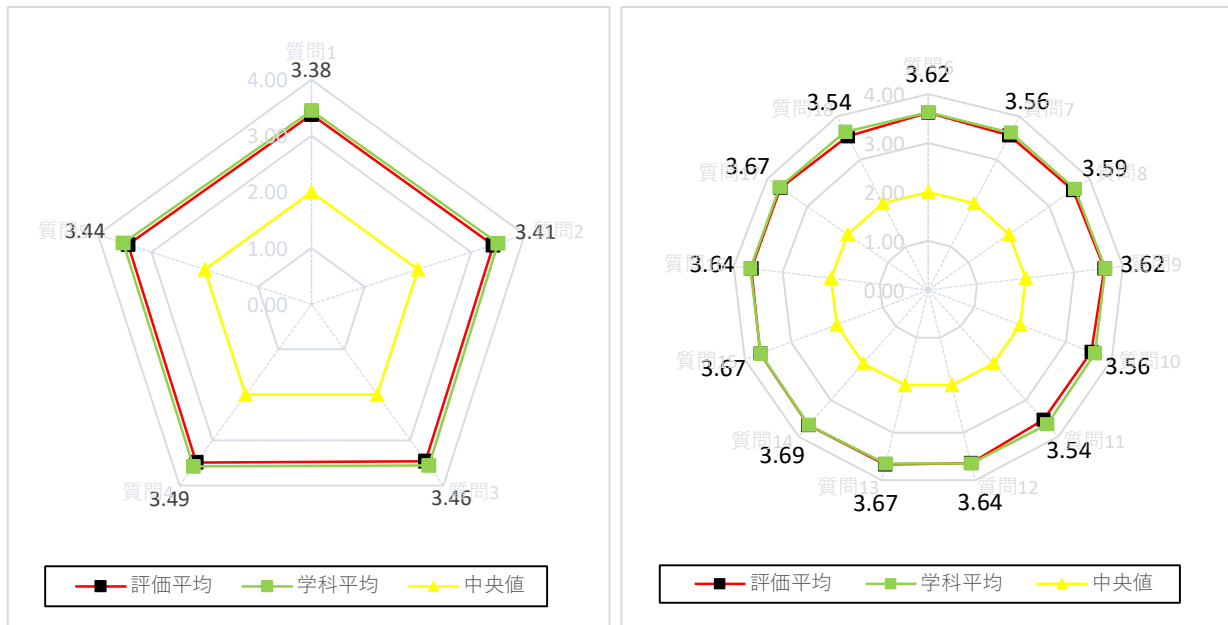
すべての質問で学科平均と同等の結果であった。授業のスピードについては次年度の課題として教員間で共有する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

複数名で担当する科目であるため、教員間の連携や問題点の共有をより意識していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション医療	85名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

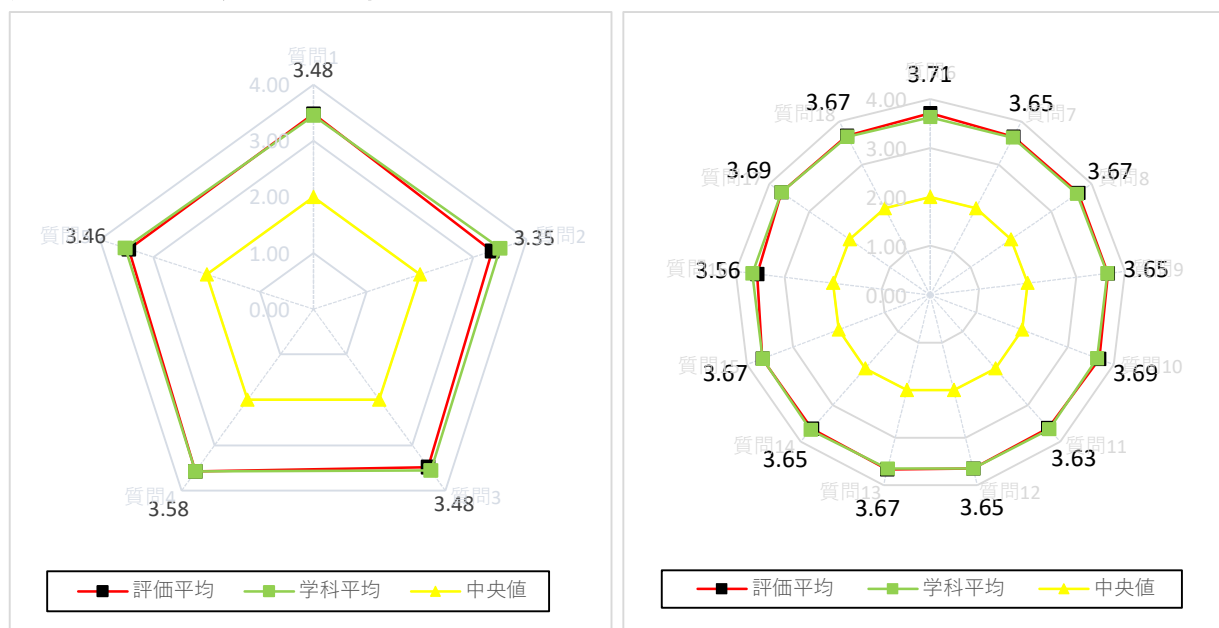
すべての項目で学科平均と同等だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

満点を目指して、講義を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

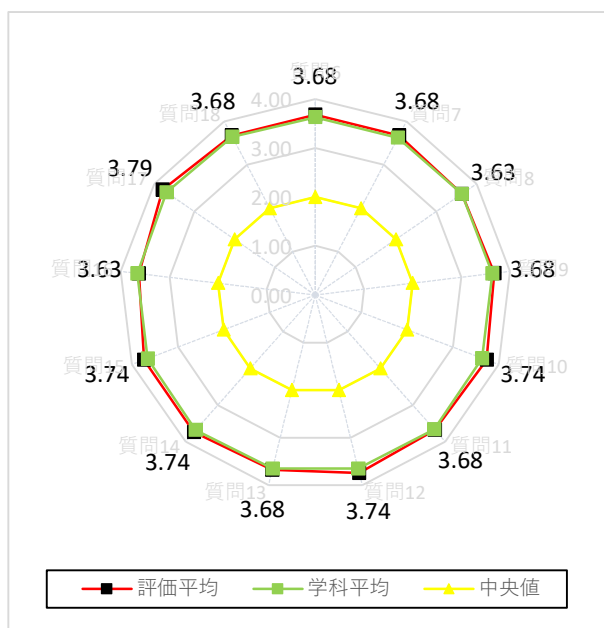
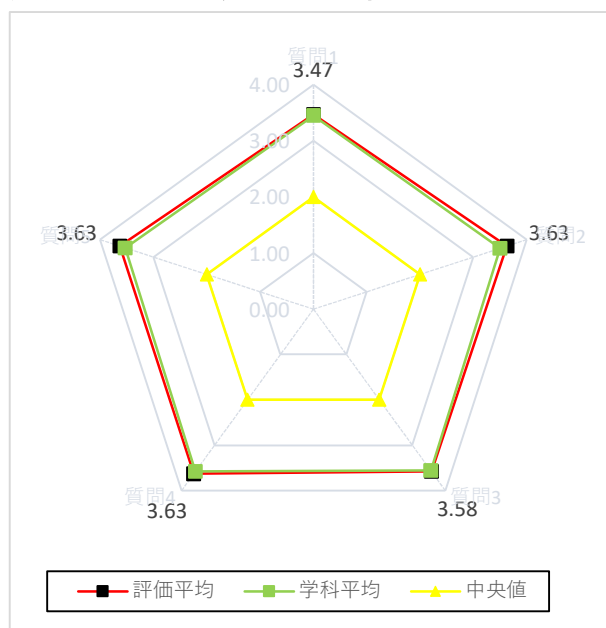
- ・ 総合評価（質問18）の平均は、3.66（最高値4）であった。
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価は、3.35であり、学生自身の取り組む姿勢も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ 臨床に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

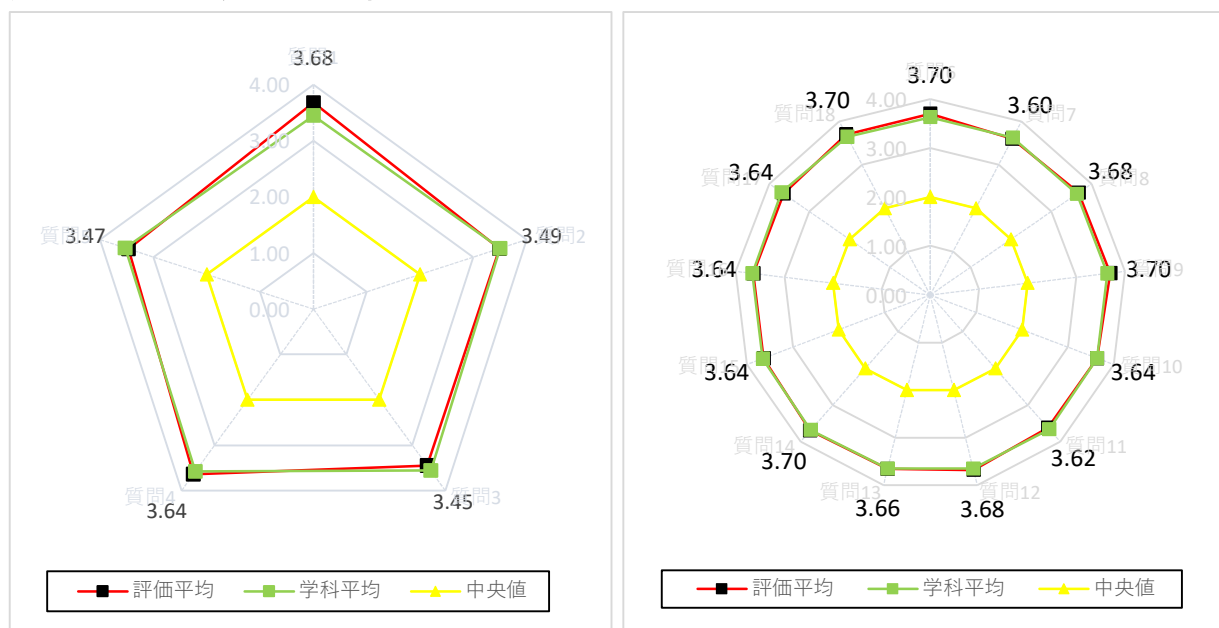
全ての質問が学科平均並みであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年次の科目であるため、より分かりやすく、興味を持ってもらえるような授業作りに努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

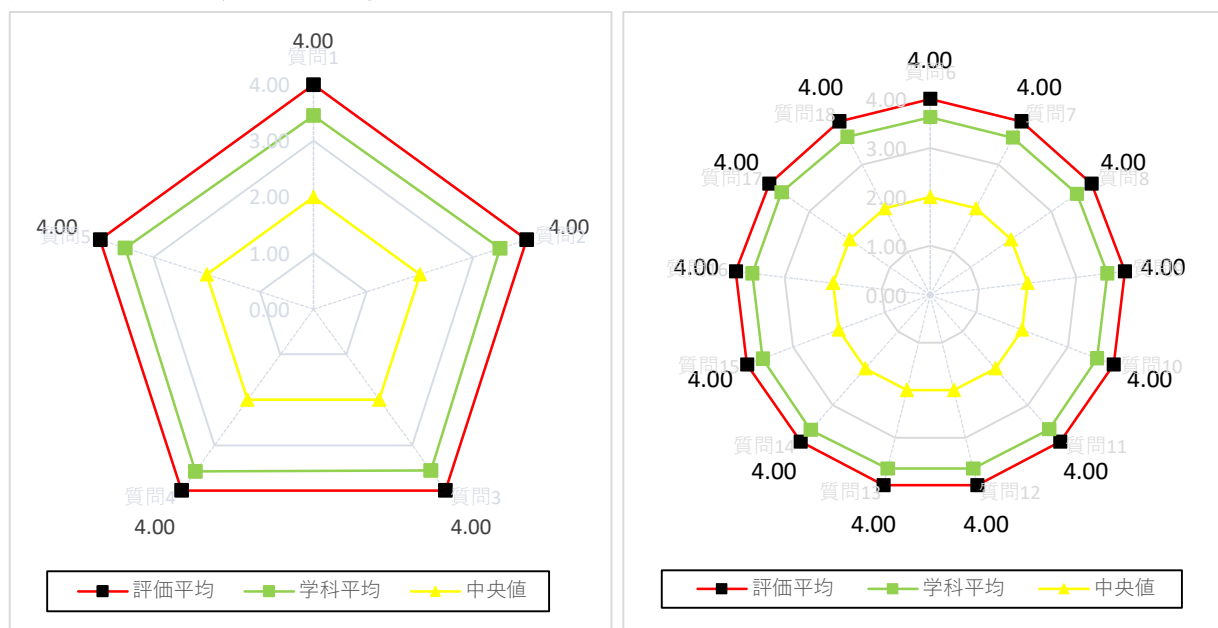
- ・ 総合評価（質問18）の平均は、3.70（最高値4）であった。
- ・ 学生自身が講義に臨む態度の評価は、3.35であった。学生自身の取り組む姿勢も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・ 臨床に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習Ⅰ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

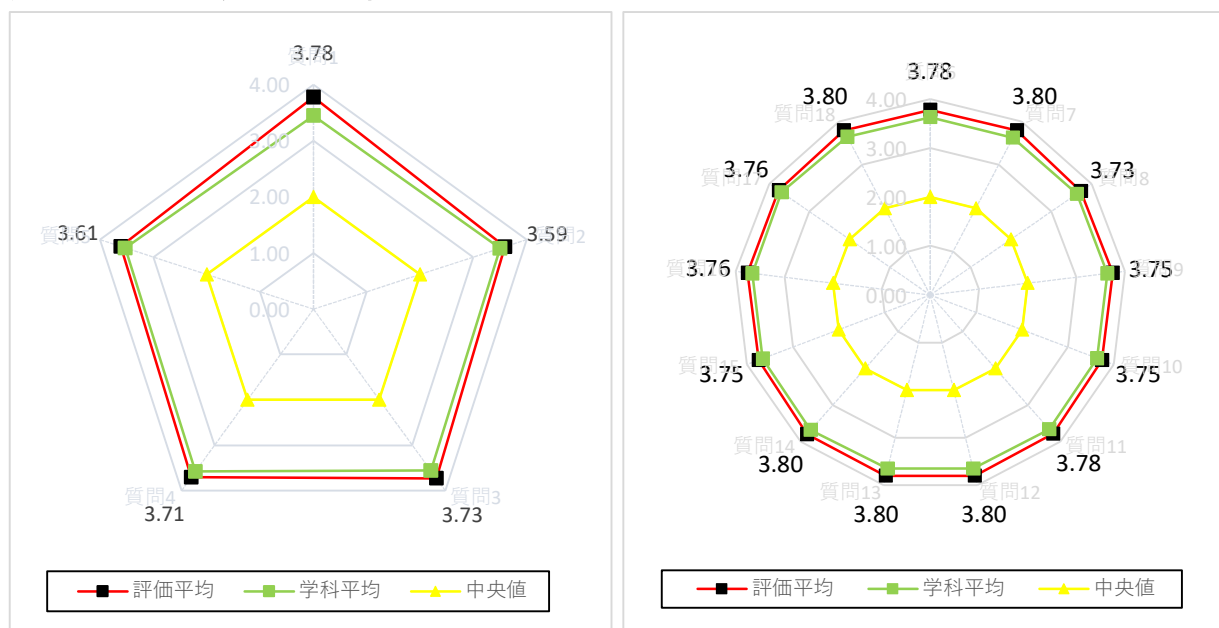
すべての質問でほぼ満点であった。実技を教授する講義であるため、動画視聴や直接的な技術指導が効果的であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨床実習や臨床に直結する講義であるため、引き続き学生が興味を示すような授業展開になるように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学演習	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

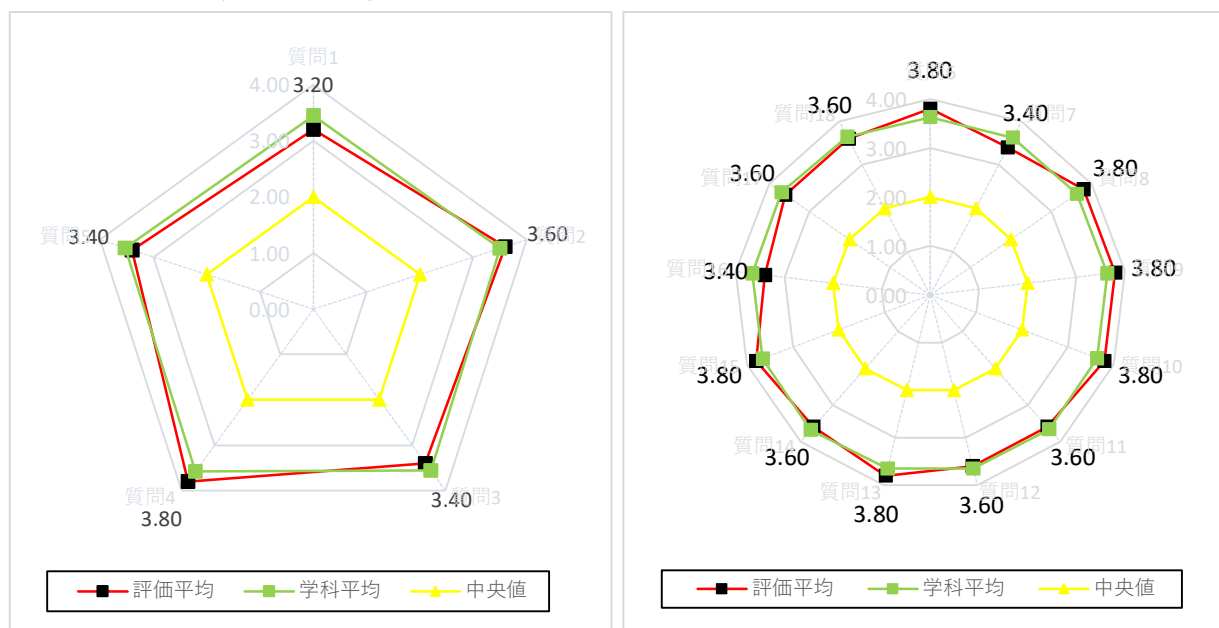
すべての項目で高い得点となった。発達障害理学療法学で学んだ知識を実践できるよう、症例を交えての演習に取り組んだ。学生同士ディスカッションをさせながら進め、多くの学生が意欲的に取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業で取り上げる症例については、近年の国家試験問題の動向を踏まえ検討し、学生がより意欲的に実習・国家試験に臨めるよう心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

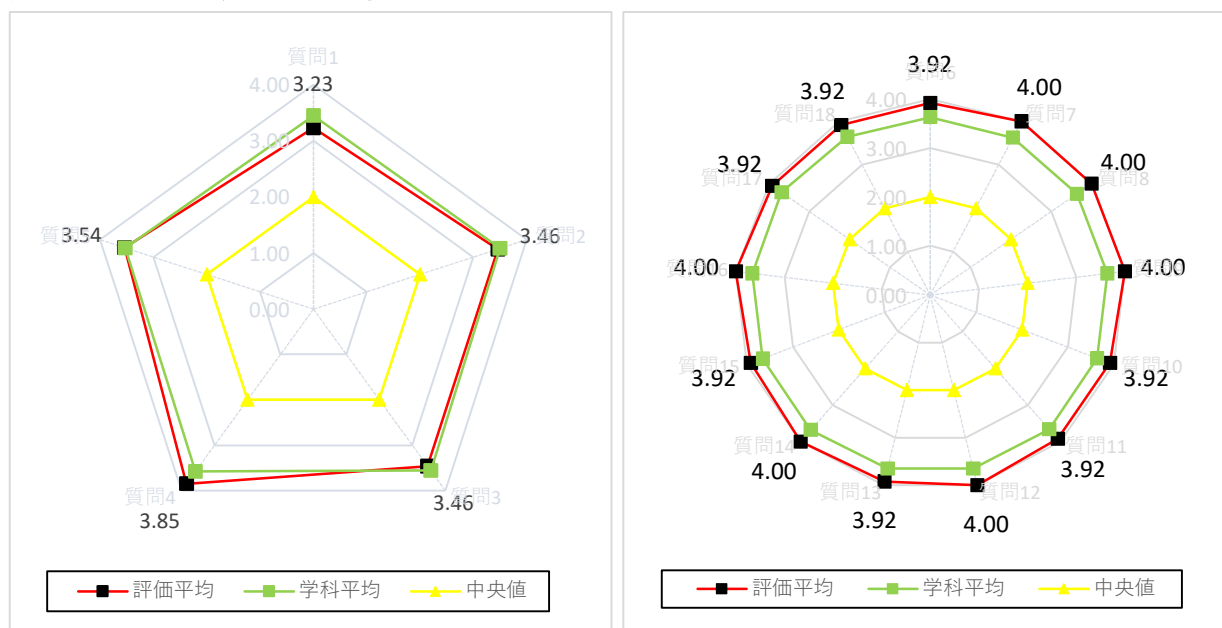
概ね全体の平均よりも高い数値となっていると考えている。次年度以降も継続していけるように準備を整えたいと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も平均値よりも学生満足度が得られるように準備をしていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学実習	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

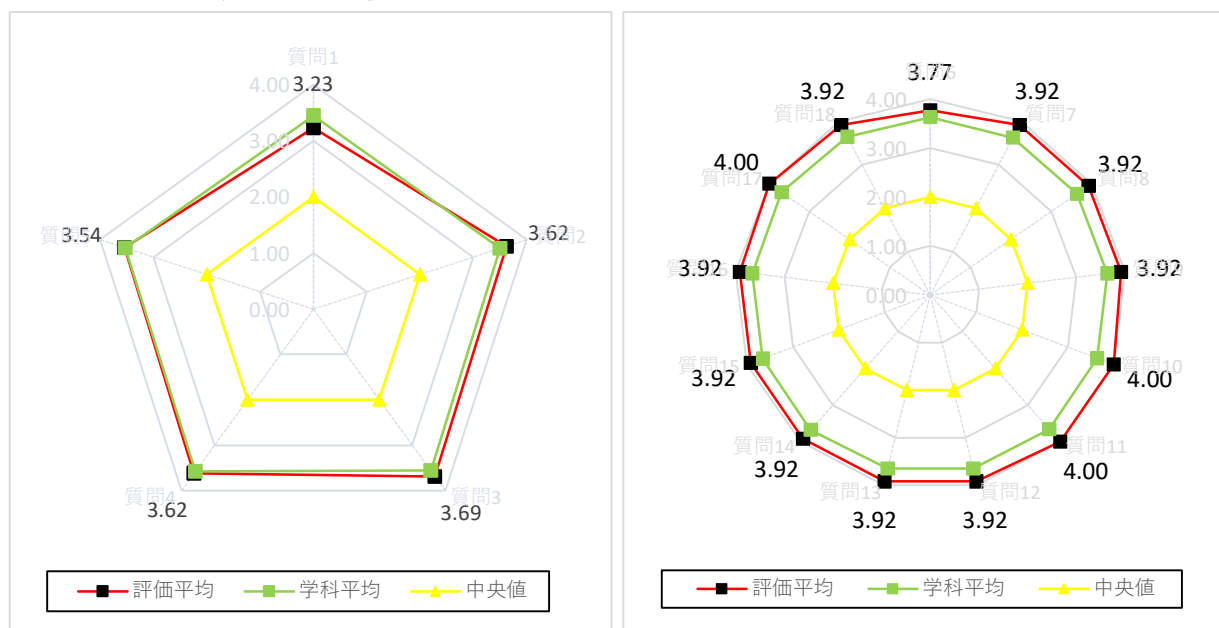
筋力を測定する方法を教授する講義であり、覚える内容が多かったため居眠りの項目で学科平均よりやや低い結果になったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

難しい内容であるが、実習などで必須の内容である。少しでも学生の理解が深まるように臨床の話などをより多く取り入れた授業に努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

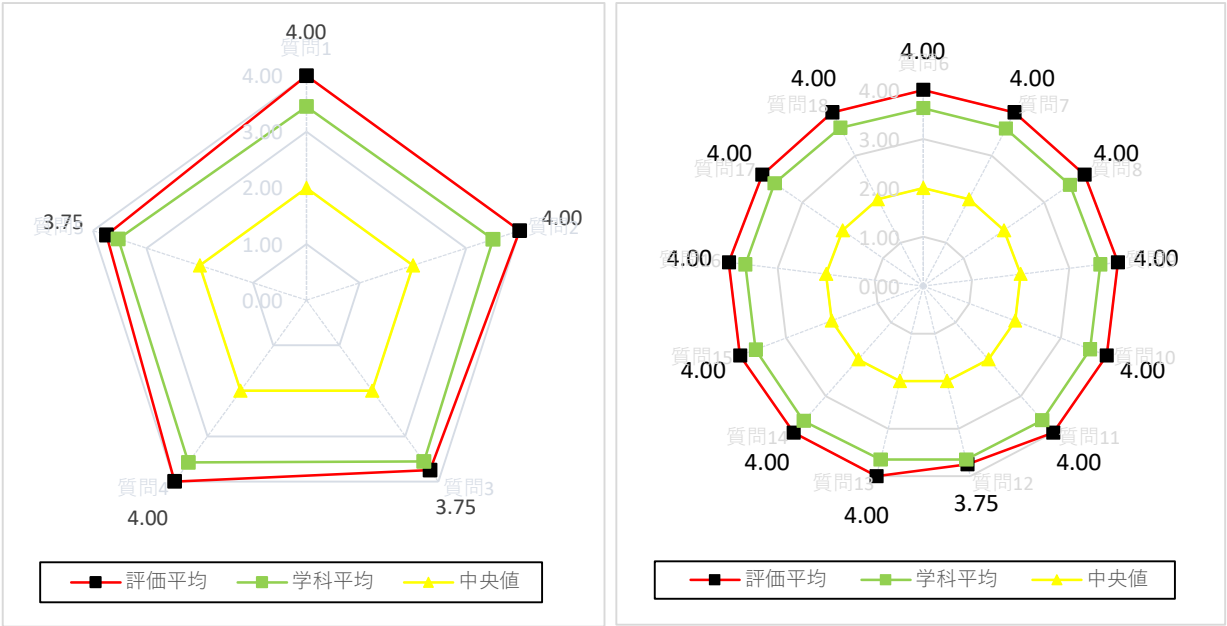
質問6から質問18はほぼすべての項目で満点であった。質問6だけがやや満点に達しなかった。シラバスについての説明は毎回行っているがより意識的に説明する必要があると感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

作業療法の核となる授業内容である。次年度も学生から高い評価が得られるように引き続き努力していきたい。また、シラバスについての説明は毎回行っているがより意識的に説明する必要があると感じた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

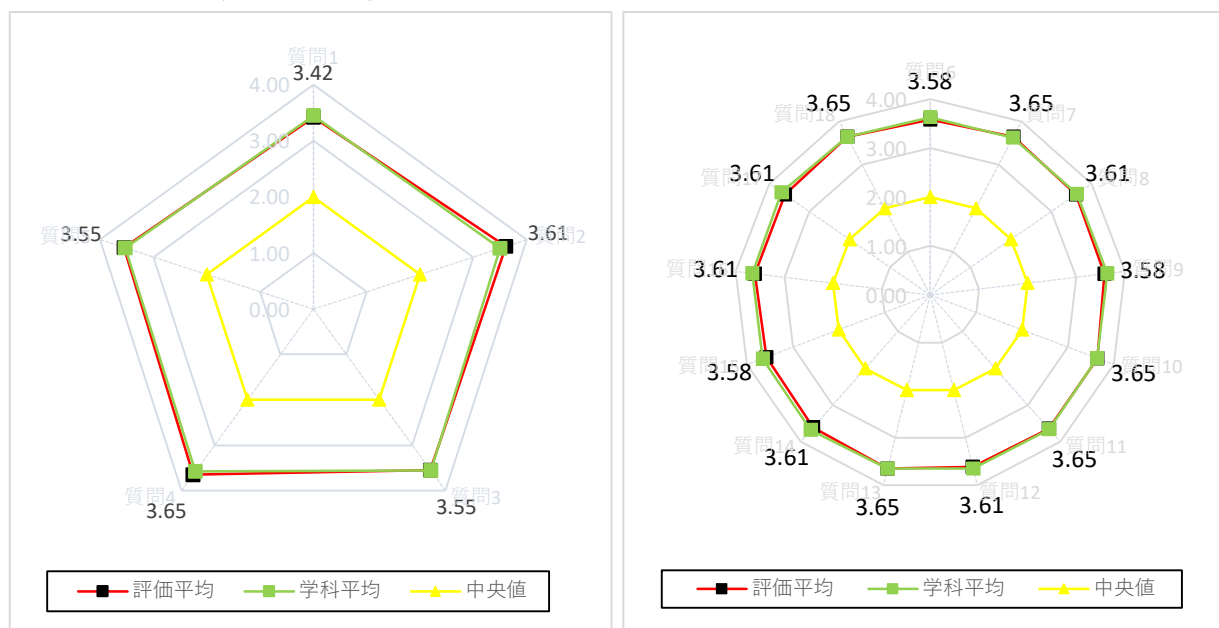
すべての項目で学科平均を上回っていた。
多くの項目で満点近かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目の満点を目指して講義する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論 I	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

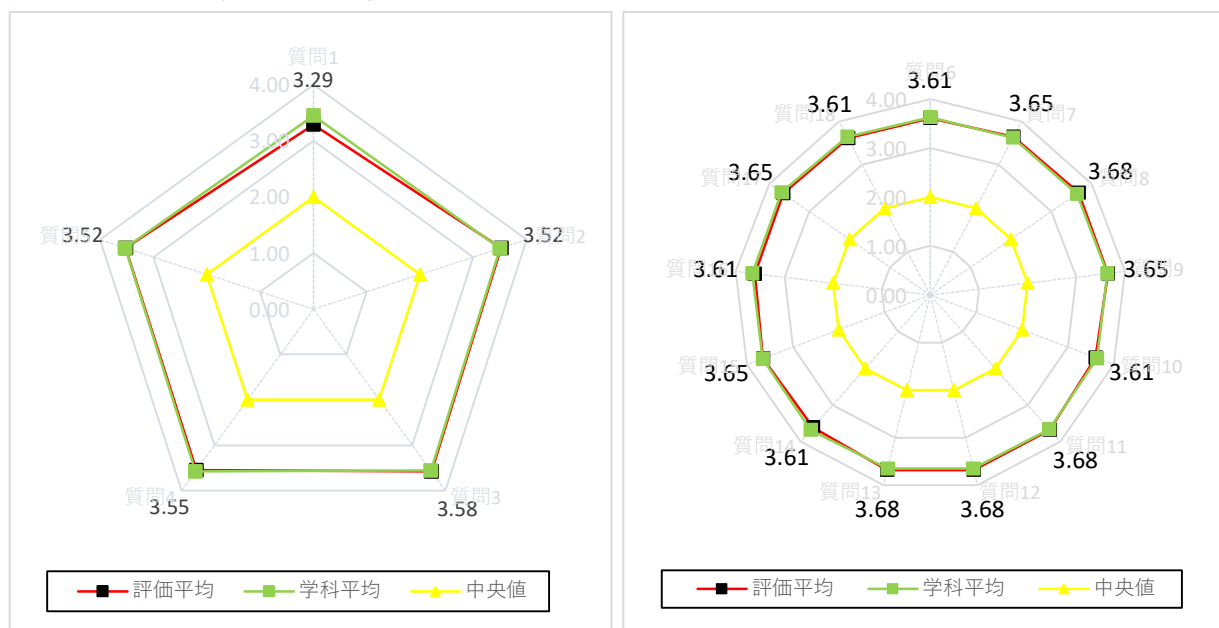
平均的な得点となった。最終学年に配置された科目であり、国家試験前の総復習を行った。学生は意欲的に取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

国家試験動向を毎年分析しながら、内容をブラッシュアップさせていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論Ⅱ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

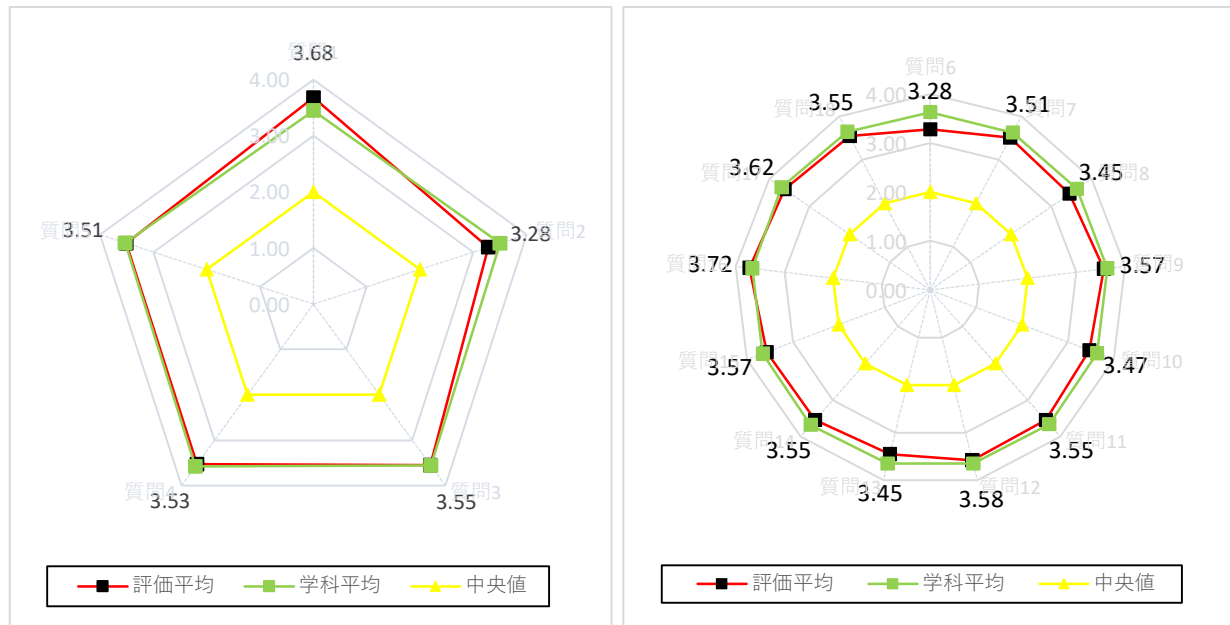
平均的な得点となった。授業の欠席で平均点を下回ったが、就職活動なので欠席する学生がいた。欠席学生についてはフォローを行った。最終学年に配当された科目であり、国家試験前に知識の総復習を行う。学生は意欲的に取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

最近の国家試験動向を分析・注視し、内容については毎年ブラッシュアップさせる必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

実習後セミナーは概ね良かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

配慮学生について、次回の臨床実習に向けての取り組みが課題となった。